

初期研修医が入院カンファレンスで プレゼンテーションすることの 教育効果

合田建¹⁾, 見坂恒明^{1,2)}, 馬渕真依¹⁾,
鈴木智大¹⁾, 松崎三徳¹⁾, 秋田穂東¹⁾

1) 兵庫県立柏原病院 内科

2) 神戸大学大学院医学研究科 地域医療支援学部門

日本プライマリ・ケア連合学会 利益相反(COI)開示

筆頭演者名： 合田建

共同演者名： 見坂恒明, 馬渕真依, 鈴木智大, 松崎三徳, 秋田穂束

筆頭演者ならびに共同演者に、
開示すべきCOIはありません。

【背景】

- 担当患者のプレゼンテーション(プレゼン)を行うことで、情報伝達や共有の他、情報評価(真偽の判断)・臨床推論能力など患者の問題解決能力向上に寄与する¹⁾。当院内科(当科)では、診療におけるプレゼンに重点を置いて教育を行っている。

【目的】

- 主体的に準備し、入院カンファレンス(カンファ)でプレゼンを行うことで、初期研修医の意識変化における教育効果及びカンファの満足度との関連を調査する。

【研究デザイン】

- 分析的観察研究.

【対象, セッティング】

- 対象は, 2016年4月～2017年12月に, 当科で研修した初期研修医41名.
- 研修開始直後及び開始1ヶ月後に,
Visual analogue scale (VAS; 0-100mm) を用いた
自己記入式質問紙調査を実施した.

【 入院カンファレンス及び プレゼンテーションの概要 】

- 入院カンファは週3回行われている。初期研修医は1回のカンファでおおよそ新患患者1-2例を発表する。
- プレゼン方法は事前にオリエンテーションを行っている。準備は初期研修医が主体的に行い、適宜、上級医が修正する。プレゼン後、情報評価や臨床推論のフィードバックを受け、診療方針の確認・修正を行う。

【主たる要因】

以下に関する項目のVAS値.

- **問題解決** (初療を行った患者の振り返り, 担当チームの患者診療における自身の意義, プレゼンによる担当患者の理解),
- **情報伝達・共有** (担当チームの患者診療における他者の意義, 担当以外の患者診療における自身の意義),
- **プレゼン能力** (タイムマネジメント意識, プレゼン能力向上, プレゼン時間の意識, プレゼン準備の必要性, 他者のプレゼンを聞くことでのプレゼン能力の向上),
- **カンファ時間の長さ**
- **カンファの満足度**

【主たるアウトカム指標】

- ① 各項目VAS値の変化量
- ② 1ヶ月後VAS値とカンファ満足度VAS値との関連.

【統計解析方法】

- ① paired *t*-test及び ② 重回帰分析.
- (p 値 <0.05 で有意差あり)

【倫理審査】

兵庫県立柏原病院倫理委員会で承認済(柏病第1214号).

【結果①】

- 各項目の内科研修開始直後:1ヶ月後の
VAS値の平均±標準偏差を示す.

(paired *t*-test)

問題解決/情報伝達・共有

問題解決に関する項目

初療を行った患者の振り返り	開始直後	85.5 ± 15.5		P値0.718
	1ヶ月後	86.2 ± 13.7		
担当チーム患者の患者診療における自身の意義	開始直後	82.8 ± 15.9		P値0.716
	1ヶ月後	82.0 ± 18.0		
プレゼンによる担当患者の理解	開始直後	84.5 ± 14.2		P値0.215
	1ヶ月後	86.6 ± 13.8		
担当チームの患者診療における他者の意義	開始直後	77.2 ± 16.7		P値0.458
	1ヶ月後	75.9 ± 18.0		
担当以外の患者診療における自身の意義	開始直後	79.6 ± 15.8		P値0.739
	1ヶ月後	79.0 ± 15.2		

情報伝達・共有に関する項目

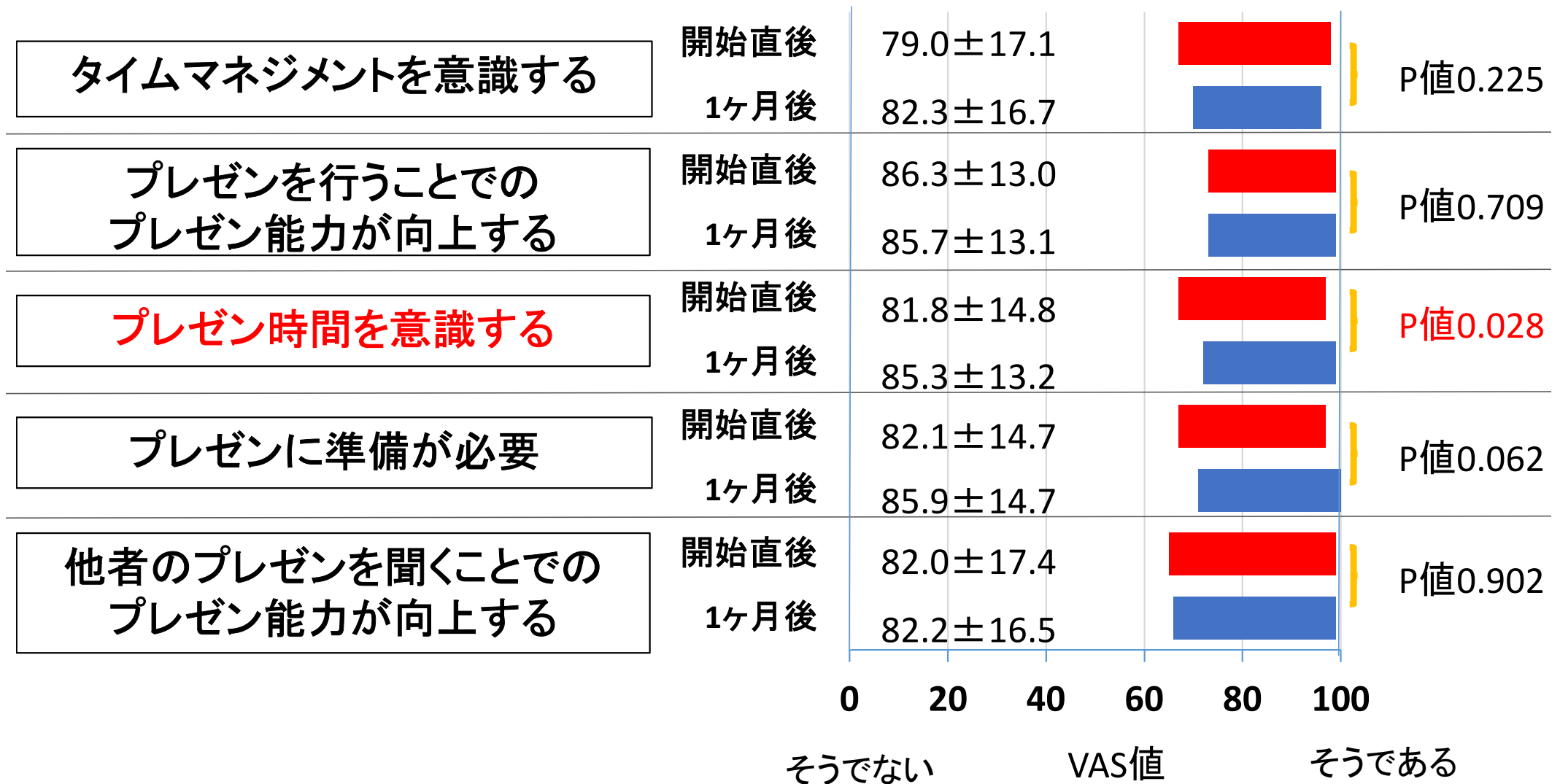
0 20 40 60 80 100

意義がない

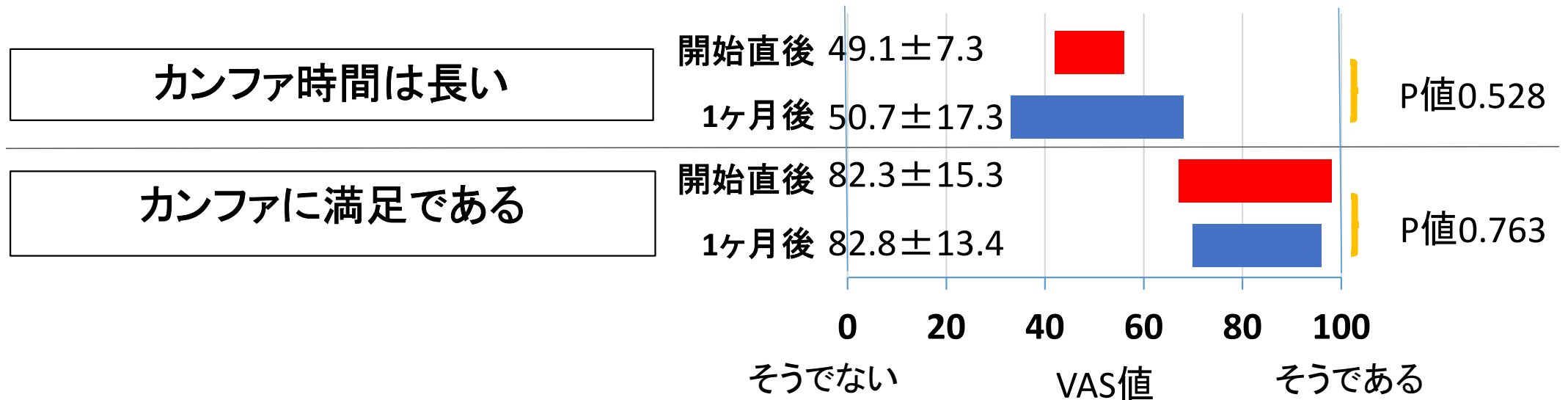
VAS値

意義がある

プレゼン能力



カンファの意義



【結果①のまとめ】

- 各項目の研修開始直後：1ヶ月後のVAS値変化は、
プレゼン時間を意識すること(81.8:85.3)のみ，有意
なVAS値上昇がみられた。

【結果②】

- 各項目の1ヶ月後のVAS値（説明変数）と
カンファ満足度のVAS 値（目的変数）との関連を
示す.

（重回帰分析）

カンファ満足度と各項目との関連

	Pearsonの相関係数	重回帰係数(95%信頼区間)	<i>p</i>
・問題解決に関する項目			
初療を行った患者の 振り返りに意義がある	0.665	−0.069 (−0.408–0.2669)	0.679
担当チーム患者の患者診療 で自身に意義がある	0.695	−0.160(−0.420–0.101)	0.220
担当チームの患者診療 で他者に意義がある	0.655	0.278 (0.054–0.501)	0.017
・情報伝達・共有に関する項目			
担当以外の患者診療 で自身に意義がある	0.745	0.132(−0.190–0.454)	0.410
プレゼンを通じて担当患者を 理解できる	0.788	0.673(0.200–1.147)	0.007

(目的変数)カンファ満足度のVAS値

$R = 0.919$, $R^2 = 0.844$, $p < 0.001$

カンファ満足度と各項目との関連

	Pearsonの相関係数	重回帰係数(95%信頼区間)	<i>p</i>
・プレゼン能力に関する項目			
タイムマネジメントを意識する	0.636	−0.160(−0.446−0.127)	0.264
プレゼンを行うことで プレゼン能力が向上する	0.811	0.533 (0.178−0.888)	0.005
プレゼン時間を意識する	0.738	−0.008(−0.617−0.601)	0.979
プレゼンに準備が必要	0.312	−0.225(−0.445−−0.004)	0.046
他者のプレゼンを聞くことで プレゼン能力が向上する	0.599	−0.104 (−0.340−0.131)	0.373
・カンファ時間に関する項目			
カンファの時間は長い	0.251	0.088 (−0.049−0.226)	0.199

(目的変数)カンファ満足度のVAS値

$R = 0.919$, $R^2 = 0.844$, $p < 0.001$

【結果②のまとめ】

(目的変数)カンファ満足度のVAS値は82.8で,

➤担当患者を理解できる(問題解決に関する項目),

➤担当チームの患者診療で他者に意義がある

(情報伝達・共有に関する項目),

➤プレゼン能力が向上する,

➤プレゼンに準備が必要(プレゼン能力に関する項目)

のVAS値と有意な相関がみられた.

【考 察】

- 実際にプレゼンを行うことで、時間配分を意識する教育効果がみられ、限りあるカンファの時間を考えると重要なことである。
- プレゼン能力に関する2項目ならず、問題解決に関する項目や情報伝達・共有に関する項目といった、プレゼンの本質的な役割に関することでも、カンファの満足度と関連がみられた。日々のカンファでのプレゼンの反復により、プレゼンの意義を自然と理解しているものと推察される。

【結 論】

- 実際にプレゼンを行うことで、時間配分を意識する教育効果がみられた.
- プレゼンの準備にあまり負担がかからず、反復とフィードバックによりプレゼン能力が向上することだけでなく、プレゼンを行うことで自分自身の理解で問題解決をはかることや他者へ情報伝達するというプレゼンの本質的な部分が、カンファの満足度と関連することが示唆された.